

## ⑦0 白川河川激甚災害対策特別緊急事業 (子飼・宇留毛・渡鹿地区)

授賞機関 国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所

**キーワード** 官学民連携、環境・景観への配慮、利活用

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

平成24年九州北部豪雨により水害が発生した熊本市において、行政・住民・企業・学識者とのパートナーシップをもって、激甚災害対策特別緊急事業を推進した取組み。良好な景観形成の実現、地域の活性化にも寄与しており、パートナーシップをもったプロセスを重視して事業を進めた点が評価された。

設計段階では、4つの基本方針に基づき、図面に加え、パースや模型を活用して住民とも合意形成を図りながら設計検討を行った。さらに施工段階では、検討結果をもとに試験施工や仕上がり状況の確認を行いながら施工を実施した。

### 1. はじめに

平成24年7月の九州北部豪雨では、代継橋水位観測所において観測開始以降の最高水位を記録し、国区間上流部では越水・溢水により190棟の家屋浸水が生じるなど甚大な被害が発生した。この出水を受け、平成24年11月に「白川河川激甚災害対策特別緊急事業」が採択された。

事業着手にあたり、短期間での整備が必要な激特事業を環境・景観・利活用に配慮したものとし、円滑に進捗させるため、官学民連携の体制を構築し、計画から施工に至る各段階で連携して事業を進め、令和2年1月に竣工した。

### 2. 事業の概要

本事業では、国管理区間上流部の明午橋～小碓橋の約3.5km区間において、再度災害防止を目的に堤防整備、橋梁架替等の河川整備を実施した。



事業範囲・整備内容（国区間）

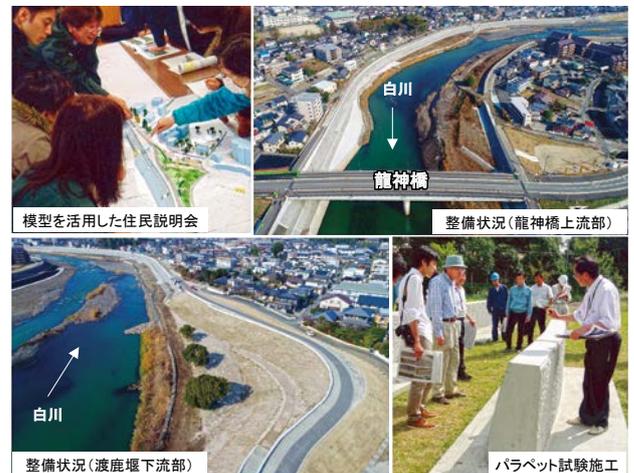
事業区間は、瀬淵や河畔林など良好な河川環境を有し、また、住宅地が白川を背にして張り付いていたことから、環境や景観・利活用に配慮した設計検討を進めるため、速やかに「白川激特区間景観検討委員会」を設置し、学識者、関係行政機関を中心に設計・施工業者も交えた検討確認を行いながら事業を進めた。

計画段階では、事業箇所の特徴を踏まえ「回遊性」「アクセス性」「空間多様性」「安全・安心」の4つの基本方針を定めた。

### 3. 事業の成果

短期間での事業実施が必要な激特事業において、速やかな官学民連携の検討体制の構築により、基本方針の策定から設計検討、地域との合意形成、施工時の確認に至る各段階において、関係者間の認識の共有を図りながら、円滑に事業を推進し、竣工を迎えることができた。

また、治水安全度の向上はもとより、可能な限り瀬淵や河畔林を残し、水際には白川の自然石を用いるなどの環境、景観への配慮とともに、回遊性やアクセス性、空間多様性など利活用を考慮した整備としたことで散歩などの日常的な河川利用が増加しており、本事業が地域と川とを繋ぐ契機となったと考えている。



整備状況と景観委員会での検討状況

### 4. おわりに

熊本市街部を貫流し、身近な自然として貴重な財産である白川は、熊本市景観計画において、「白川沿岸地域」として重点地域に設定されている。

本事業は、その景観形成方針である水辺の緑と調和した白川に顔を向けた市街地景観の形成にも大きく寄与したと考えており、今後、更に利活用が進み、地域の活性化にも繋がっていくことを期待している。